



本学新入生2,108名を対象とした肝疾患検診 : その意義について

尹, 聖哲 ; 中田, 邦也 ; 佐伯, 進 ; 馬場, 茂明 ; 河原, 啓 ; 奥村, 武久 ; 長井, 勇 ; 田中, 素由

(Citation)

神戸大学保健管理センター年報, 11:49-51

(Issue Date)

1986

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81001491>



本学新生 2,108 名を対象とした 肝疾患検診—その意義について—

神戸大学医学部第二内科

尹 聖哲, 中田 邦也, 佐伯 進
馬場 茂明

神戸大学保健管理センター

河原 啓, 奥村 武久, 長井 勇

神戸大学総合情報処理センター

田中 素由

結 果

一次検診の成績を表 1 に示した。

GOT 及び GPT の値を夫々 40 K. U. 及び 50 K. U. で区切って 4 つに分類し, これを HBs 抗原陽性者と陰性者に分けて対比すると表 1 の如くであった。HBs 抗原陽性者は, 男性 26 名 (1.62%), 女性 5 名 (0.9%) で男性に多く, 又 HBs 抗原陰性でも酵素活性高値を示す例は, 男性に多く認められた。

表 1

1 次 検 診 成 績

GOT, GPT (K.U.)	HBs 抗原		HBs 抗原(-)	
	男	女	男	女
GOT > 40, GPT > 50	4	0	33	0
GOT > 40, GPT ≤ 50	0	0	9	1
GOT ≤ 40, GPT > 50	2	0	11	0
GOT ≤ 40, GPT ≤ 50	20	5		
合 計	26	5	53	1

HBs 抗原陽性者 31 例における HBe 抗原 及び HBe 抗体の有無を表 2 に示した。表に示した肝生検のうち 2 例は本学第二内科において施行し, 他の 2 例は他施設において行ったものである。

表 3 に二次検診の成績を示した。無症候性キャリアーと思われる者は日本人 31 名, 1.5% で諸家の報告と一致する。¹⁾

はじめに

近年 HBs 抗原キャリアーがその予後と関連して注目されているが, その対策については未だ効果的な手段が見出されていない。

このたび我々は, 本学学生における HBs 抗原陽性者の実態を把握する目的で, 肝臓検診を行い若干の知見を得たので報告する。

対象及び方法

対象は, 本年度新生 2108 名, 新たにレジデンスに入居する留学生 35 名, その他検診希望者 26 名の計 2169 名である。

採血は, 教養部体育担当教官の御協力を得て, 5 月中旬に 6 日間かけて, 体育実技時間の前後それぞれ 30 分間に行った。又採血時に簡単なアンケート調査を行った。

一次検診として全員について GOT, GPT 及び HBs 抗原を測定し, これらに異常を認められた者については, 二次検診として HBe 抗体, Bil, ALP, γ -GTP, ChE, CPK 及び蛋白分画を測定した。HBs 抗原陽性者については, HBe 抗原及び HBe 抗体を測定し, またほぼ全員について腹部エコー検査も行った。

表2

HBs抗原陽性者(31例)に於けるHBe抗原及び抗体

HBe	抗原(+) 抗体(-)		抗原(-) 抗体(-)		抗原(-) 抗体(+)	
	男	女	男	女	男	女
酵素活性						
GPT>50	5 ^{***}	0	1 [*]	0	0	0
GPT≤50	8	3	0	1	12	1
合計	13	3	1	1	12	1

* 肝生検 慢性活動性肝炎 (2例)
非特異的变化 (1例)
前肝硬変病変 (1例)

表3

2次検診成績 (90例)

HBs抗原(+) 36名*

- 無症候性キャリア 31名**
- 慢性肝炎 4名***
- 一過性感染 1名

HBs抗原(-) 54名

- 脂肪肝 21名
- 脾腫 7名****
- 診断保留 26名

- * 日本人 31名(1.5%) 留学生 5名(14.3%)
- ** 日本人 27名 留学生 4名
- *** 日本人 3名 留学生 1名
- **** 慢性骨髄性白血病 1名を含む

注目すべき点はCMLが1名発見されたことで、この例は巨大な脾腫を有しており、腹部触診を行わない通常の定期検診の欠点が示された。又HBs抗原陰性者で酵素活性が高値を示した54名の中21名(39%)はエコー検査により、脂肪肝と診断された。

アンケート調査の成績を表4に示した。

各調査項目の中で肝疾患の既往を有するものは22例でこのうち4例(18%)に肝機能異常が認められた。この値は既往歴なしとした者で肝機能異常を認める例に比して推計学的に有意に

高値であった(P<0.01)。その他は、各項目の有無にかかわらず4%から8%に肝機能異常が認められた。

表4

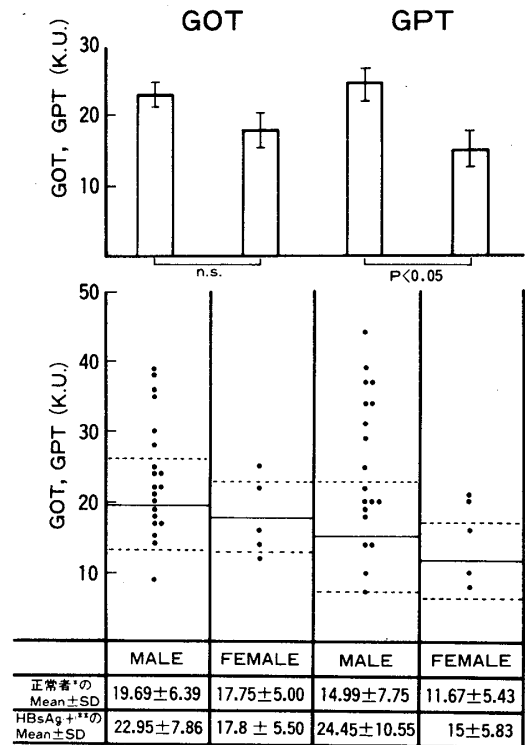
アンケート調査と肝機能異常

アンケート(1640)		肝機能異常		χ ² 検定
		あり	なし	
既往歴	あり	22 (1.4%)	4 (18%)	P<0.01
	なし	1618 (98.6)	61 (4.8)	
輸血	あり	23 (1.4)	1 (4.4)	n.s.
	なし	1617 (98.6)	64 (4)	
渡航	あり	90 (5.5)	4 (4.5)	n.s.
	なし	1550 (94.5)	61 (4)	
薬剤	あり	100 (6)	1 (1)	n.s.
	なし	1540 (94)	64 (4.2)	
家族歴	あり	57 (3.5)	3 (5.3)	n.s.
	なし	1583 (96.5)	62 (4)	
飲酒	あり	25 (1.5)	2 (8)	n.s.
	なし	1615 (98.5)	63 (4)	

COT≤40 K.U.及びGPT≤50 K.U.でHBs抗原陽性者を男女別に分けて、それぞれの酵素活性を比較すると図1の如くである。GOTは男女間で有意差を認めなかったが、GPTは男性が有意に高値を示した(P<0.05)。

図1

GOT≤40, GPT≤50のHBs抗原陽性者におけるGOT, GPT値の性差および分布



* 正常者 : 男 1487名, 女 521名
** HBs抗原陽性者 : 男 20名, 女 5名

考 按

大学生における肝疾患，殊にHBs抗原キャリアーを中心とする調査，研究については，すでに報告がある。^{1) 2)}

我々も，以前よりこの問題について関心を寄せていたが，今日まで調査を行わなかったのは，以下の理由による。すなわち，1. HBs抗原陽性者を見出しても現時点では，その事後処理に積極的あるいは効果的な手段をもたない，2. 予算の問題とも関連するが，大学内のどの学生を対象として調査するのが最も適切であるか，3. 当年度はよいが，次年度以降の検診をどうするか，の3点である。

しかし，今回調査にふみきったのは，諸家の報告を参考にのみでなく神戸大学内の実態を把握しておくことは保健管理センターとして無意味なことではないと考えたからである。

今回の肝臓検診の成績をふまえても，前述の3点については有益な指針を得ることは出来なかったが，男性と女性を対比したとき興味ある点は次の3点である。1. HBs抗原陽性者は男性26名（1.62%），女性5名（0.9%）であった。2. 酵素活性高値の者は男性53名（3.4%），女性1名（0.18%）であった。3. キャリアーにおいても男性は女性に比してGPTは高値であった（ $P < 0.05$ ）。これらの成績は，男性は女性に比して肝が「弱い」可能性を示すもので，肝疾患に抗ウイルス剤を用いたとき，女性の方が効果が表われやすいという報告も合わせて³⁾，今後検討する必要があるものと思われた。例数が少ないが，留学生ではHBs抗原陽性率が日本人に比して高値であったことからレジデンスへの新入居者をHBs抗原検査の対象とするのが望ましいと考えられる。

アンケート調査については，肝疾患の既往，輸血，海外での感染，薬剤による肝障害，家族

内感染，及び飲酒の影響について検索したが，肝疾患の既往の項目以外現症との関連を認め難く，アンケート調査によるスクリーニングはきわめて困難でその内容は充分検討する必要のあることが示唆された。

文 献

- 1) 榎本浩昌，他：B型肝炎健診の調査結果に関する報告（I），第21回全国大学保健管理研究集会報告書，21：137～139，1983。
- 2) 辻 孝夫，他：大学生の肝疾患集団検診と事後指導・管理のあり方，日本医事新報，3024：45—50，1982。
- 3) 瀧野辰郎，他：ウイルス肝炎をめぐる最近の問題点，*medicina*，18：1567—1577，1981。